

〈七月、九月の法座案内〉

宗祖を訪ねて

○七月三日（日）十四時	輪番
○八月三日（水）十四時	輪番
○九月三日（土）十四時	輪番

味読正信偈

○七月十三日（水）九時半	輪番
○八月二十三日（火）九時半	輪番
○九月十三日（火）九時半	輪番

暁天講座

○七月二十五日（月）六時四十五分
高田教区 覺真寺住職 藤戸 秀庸 師
「生活即念仏」

○七月二十六日（火）六時四十五分
高山教区 真蓮寺住職 三島 多聞 師
「南無のかたち」

○七月二十七日（水）六時四十五分
三条教区 光濟寺住職 安富 信哉 師
「親鸞聖人とお念仏」

孟蘭盆会

○八月十三日（土）九時半
長浜教区 即往寺住職 京極 眞了 師
講題 未定
終了後、雑炊の集い

秋季彼岸会

○九月二十三日（金）九時半
本願寺派 奈良教区 教学寺住職 板橋 宏憲 師
「阿弥陀様の願い」

列座交代のお知らせ



〔安孫子義道〕
へ入寺する。寺
だき、いた。皆
話になり、ご指
崎別院で学んた。お
を糧に新しい生
臨んでいきます。活



〔近藤悠〕
いた、日々右
左に、勤め
おります。ご
鞭撻のほど、よろ
くお願いいたします。

岡崎別院列座歓迎会



四月二十七日、列座
の交代に伴い、列座
送迎会が開かれた。列
座の紹介や関係者の
挨拶、余興などもあ
り、別院の門徒は、多
数の出席者に恵まれ、
盛況のうちに閉会とな
った。ご多用の中、ご
ご多用の中、ご出席
いただいた皆様へ、紙
面をお借りして、あら
めて御礼申し上げます。
ございました。



対処で生きているのですか
願いに生きているのですか

第28号
平成28年
(2016年)
7月・8月
・9月号
発行：編集
岡崎別院
輪番 福田 大

厚生労働省によると、日本の認知症患者数は二〇一二年時点で約四
六二万人、六十五歳以上の高齢者の約七人に一人と推計されている。
また、認知症の段階「軽度認知障害」約四百万人を合わせると、
高齢者の約四人に一人が認知症あるいはその予備軍ということになる。
ひと昔も前、私が籍を置いていた別院の御門徒は九十歳で認知症に
なり、施設に入られた。その方は、毎日お朝事や法座に欠かさず足を
運ばれた篤信な方であった。
会いに行くと、どうやら私が誰か定かでない御様子であった。しか
し、以前と変わらず会話の中では必ずお念仏が出てくる。ご家族に聞
いてみると、朝起きると必ず別院に向かい合掌され一日が始まり、寝
る前にはまた別院に向かい合掌をされ一日が終わる、そんな日々を送
られていたということであった。
この方は、聞かれた御法話の一つ一つをおそらく記憶されているこ
とはないであろう。しかしその一つ一つの御法話が身で領かれていた
のであろう。それは理知・理性で聞かれたのではなく、身の事実とし
て聞かれた。つまり身に残っていることがそのままその方の日々の生
活となつていくということである。
現在、我が家庭にあつては、両親の介護が始まったばかりである。
私の思うように動いてほしい、自分の都合よくあつてほしい。時に
はきつく当たり、また時には大切に思う「喜・憂の毎日である。
今の私のあり方は、親に出遇うどころか、親に対処の毎日である。
そんな私に、両親は「何をウロウロしてるんや。いろんな自分が見え
て来るやろ。その自分に目を逸（そ）らさず、しっかりと見ときや。お
父ちゃんとお母ちゃんはお前が自分を縁になるさかいな」と言わ
れていくような気がしてならない。
親からの願いを聞きながら、今日もまた対処で乗り切ろうとする、
どうしようもない私が今ここにいます。

2016年 朝の法話(暁天講座)のご案内

本年度も当院にて朝の法話（暁天講座）を厳修いたします。三日間にわたり
早朝から各講師に御法話いただきます。どうぞお誘い合わせの上、ご聴聞いた
だきますよう、よろしくお願い申し上げます。

●7月25日（月）午前6時45分～8時

講師 藤戸 秀庸 師(真宗大谷派宗議会議員・高田教区第五組覺真寺住職)
講題 「生活即念仏」

●7月26日（火）午前6時45分～8時

講師 三島 多聞 師(真宗大谷派参務・高山教区第一組真蓮寺住職)
講題 「南無のかたち」

●7月27日（水）午前6時45分～8時

講師 安富 信哉 師(真宗大谷派教学研究所所長三条教区第二十二組光濟寺)
講題 「親鸞聖人とお念仏」

※三日間ともパンとコーヒーを用意してお待ちしております。

〈結婚式〉



三月二十日
貴山 正さん
希望さん

結婚式予約状況(二〇一六年)

☆九月	十日	鮫島家
☆十月	九日	荒木家
☆十月	十日	谷口家
☆十一月	三十日	某家
☆十一月	十二日	某家
☆十一月	二十七日	リュウシユ家

なお、予約の詳細はHPで公開中です。

へ列座のつづき

三月十九日から岡崎別院にお世話になってまだ
三か月ほどの勤務ですが、すでに多くの方々との
ご縁をいただき、楽しくもあり、忙しくもある充
実した日々を送っております。(近藤)

宗史蹟親鸞聖人岡崎草庵跡
真宗大谷派(東本願寺)

岡崎別院

〒606-8335
京都市左京区岡崎天王町
26番地

電話・FAX 075-771-2921

http://okazakibetsuin.com
info@okazakibetsuin.com

親鸞WEEK

四月二日～九日にかけて、親鸞WEEKが行われた。二日は子ども会・花まつり、三日は比叡山延暦寺前執行武覚超師の宗史蹟公開講座、四日には別院本堂を会場とした落語の会（別院寄席）、八日には別院をゴールとした、教区主催親鸞ウォークが行われた。

九日には地域の飲食店組合など各団体の協力のもと、オカザキプレイが開催された。本堂御拝付近を舞台として地域の有志や学生たち、プロのミュージシャンによる演奏などのほか、様々な屋台やワークショップも出店された。ウィーク中の七日間で約千三百人が来院、同日には旧大谷専修学院岡崎学舎を会場とした婚活の集い（寺こん）も開催された。

また五日～八日は本堂を会場として、岡崎別院寺宝展も開かれた。



花まつり・灌仏



子ども会餅つき



人々で賑わう



オカザキプレイ



岡崎別院寺宝展



親鸞ウォーク到着後の本堂での法話



夜の部の演奏



岡崎別院雅楽会

別院寄席
笑福亭仁智師

寺こん



打ち上げ会

四月十七日に五十名が参加して庭園で打ち上げ会のバーベキューを行った。東屋には特設のBARも設けられた。

質疑応答

講座終了後は参加者からの質問に答える質疑応答のコーナーが設けられ、参加者から多数の質問が寄せられた。会場には約八十名が聴聞に訪れ、満堂となった。

武 覚超師

講座開始前

三日には宗史蹟公開講座が開催された。武覚超師（比叡山延暦寺前執行）に「親鸞聖人が修学した比叡山の念仏」の講座でお話しいただいた。

第十二回蓮華の集い

去る二月二十三日、「第十二回蓮華の集い」が開催された。テーマは「できなくとも認められる世界」で、真城義麿師がお話をされた。本堂は話を聞きに来られた方で満堂であった。講義終了後は書院にて茶話会、御殿にて託児所が開かれた。



真城義麿師



茶話会



託児所

岡崎別院おみがき

去る三月二十一日、春の彼岸会法要に向けて、仏具のおみがきが行われた。薬品で磨く人、新聞や布で仕上げていく人に分かれ、作業が進められた。十五名が参加し、終了後に、別院職員による特製カレーを全員でいただいた。

春の彼岸会法要



栖雲深泥師

三月二十三日、当院にて春の彼岸会法要が厳修された。滋賀県樹洩陽舎舎幹の栖雲深泥師に「汝、起ちて」という講題で御法話いただいた。五十名が参詣された。

山城第二組 同朋の集い



木之本西徳寺

去る五月十一日、山城第二組同朋の集い「長浜・彦根バスツアー」が行われ、当院三日講員より十七名が参加、輪番が随行した。京都市役所前を出発し、木之本西徳寺、長浜別院大通寺を参拝、黒壁スクエア、彦根城・庭園を観光した。

長浜別院

黒壁スクエア

食事風景



山城第二組 第3回仏教市民公開講座



三月五日、岡崎別院において山城第二組主催「第三回仏教市民講座」が開催された。「生きる」をテーマに同朋会館教導大阪教区光徳寺住職高橋法信師にお話しいただいた。

都草による境内清掃奉仕



京都観光文化を考える会（都草）による清掃奉仕が行われ、境内庭園の清掃が行われた。約三十名が参加され、輪番が別院の沿革史を説明した。

ドイツ留学生滞在記録



書院での食事会

三月二十六日から二十九日にかけて、ドイツから日本の大学等へ留学している方々が別院に宿泊された。「ドイツの会」講師リュウシュ・マルクス氏のベルリン大学時代の生徒であり、京都に滞り、市内各寺院を見て回り、別院の晨朝勤行にも参詣された。